http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.143 13/01/23

ナウシカ

推薦や学力選抜にともなって、部活が禁止になったり、早く帰れたりすることがあるので、そんな時は百人一首を勉強してもらいたいところではあるが（笑）、余裕がある時にちょっと自分の好きなことをしてみるといったこともイイだろう。で、今回はアニメ映画を見直してみたら…という提案。

今ではすっかり有名な宮崎駿さんが、コアなアニメファンだけでなく一般の人にも名が知られるようになったのは、映画「風の谷のナウシカ」からである。君たちも観たことがあるに違いない。この「ナウシカ」、単にアニメとして楽しめるだけでなく、作品としてさまざまな観点からきめ細かな分析がなされていて、そういうのを知った上で観ると、さらに味わいが深くなる。そんな分析の一例を紹介してみよう。

＊

ナウシカといえば、やはり「風の谷の」というタイトルや、例えば冒頭のメーヴェに乗って空を自由に飛び回るイメージから、「風」のイメージと重ねて捉えられることが多いが、実はナウシカの操るメーヴェは、後部から噴射される青い火で動いていることがわかる。さらに、オームの死骸から目玉カプセル？を回収する場面では、弾丸から火薬を取り出して発火させるという技を使っている。つまり、ナウシカは「火」の使い手でもある。

「火」というと、あの巨神兵が思い浮かぶに違いない。そして、巨神兵がその火を使って成し遂げようとしたことは、オームの大軍を焼き尽くすことである。オームがある意味「自然」を象徴していることを考えれば、そこには「自然vs火」という対比の構造が見え、それは「自然vs技術」という対比でもあろうということが見えてくる。（巨神兵は技術的に作られたものでもある…）

さて、ナウシカは「火」の使い手ではあるが、同時に「風」の使い手でもあることも（メーヴェの扱い初めとして）明かである。では、「風」はいったい何を表しているのだろう。

「風」は飛ぶものであり、運ぶものである。風が運ぶものは、うわさであり、世相や便りなどの「情報」と呼ばれるものである。「風の便り」「巷の風」「浮き世の風にあたる」などといった表現が思い浮かぶだろう。つまり、「風」は、情報や、その情報を運ぶ伝達者・媒介者のことであり、遠く離れたものの間の情報の橋渡しをするものである。更に言えば、世界を分断する壁を越えたり、その壁の風穴から通り抜けたりするものなのである。

ここまで書けば、「風の谷のナウシカ」という物語の骨格が、「火」というすべてを断ち切るものと、「風」というすべてを結びつけるものの物語であることが見えてくるだろう。ナウシカは、断ち切る力をもちながらも、すべてをつなぐ主人公として登場し、「人間の世界」と「腐界の世界」と「オームの世界」とを結びつける存在なのである。ナウシカがいかにも風のように飛翔するのは、彼女がそのような媒介者としての設定を担っているからにほかならない。